



夫木和石抄

利
1765
91



4

1458

利
1765
卷 91

六指日後社和泉
 日
 八条院六条
 早苗
 神
 種
 深
 譲
 五十五
 郡
 我
 忠峯
 三行分
 伊豆國
 菅藏書
 熊取村
 二
 郡
 甲斐
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十



戸 門 牆 籬
 庭 床 樞 棟 窓
 郡 里 村 市 驛

丈本和守抄卷第一
 九
 四
 四
 四
 四



三三
りやうのひのあつきのねんすけのちひさし
亀嶺ひらのちひさし

日

万代のきり
二
千

み
の國

ののり
たのい
ま
たのちひさし

武藏のちひさし
たのい
ま
たのちひさし

徳富のちひさし

武藏野の
ちひさし

ちひさし
徳富のちひさし

中務のちひさし

ちひさし
ちひさし

日
の武のちひさし

ちひさし

ちひさし
ちひさし

ちひさし

ちひさし
ちひさし

ちひさし

日
我
ちひさし

ちひさし

ちひさし
ちひさし

六帖
ちひさし

新撰の書
あらし
昌泰元年
合冊
合冊

日 〇

〇

大書

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

くろあろきし 武彦

後法性王の同白鳥首 皇太子を天皇の御孫と

の...
入間

の...
入間

文意三年七社百首 西の内

の...
あし

の...
事初國

遠古七年海百可申 日

の...
手巻

南里因持衣の...
西行

の...
音加

武治二年指中現を協為歌并合

の...
此里紀序

源仲正

又月夜...
曝

の...
合

の...
事初國

慶應院

の...
林

の...
今里山

の...
山

の...
かき二

の...
山

の...
山

696

Handwritten cursive script with red annotations: 待 (wait), 契 (contract), 老係好片 (old good piece).

Handwritten cursive script with red annotations: 以上枕草紙 (above this is pillow grass paper).

Handwritten cursive script with red annotations: 伴勢 (assistant).

Handwritten cursive script with red annotations: 懂 (understand), 我 (I), 里 (place).

Handwritten cursive script with red annotations: 但馬 (Butsuma), 里 (place), 我 (I), 里 (place).

Handwritten cursive script with red annotations: 里 (place).

Handwritten cursive script with red annotations: 我 (I), 里 (place), 七 (seven).

Handwritten cursive script with red annotations: 國 (country), 里 (place).

Handwritten cursive script with red annotations: 里 (place), 信 (faith), 里 (place).

Handwritten cursive script with red annotations: 里 (place).

Handwritten cursive script with red annotations: 幾代 (several generations), 過 (past), 里 (place).

Handwritten cursive script with red annotations: 里 (place).

Handwritten cursive script with red annotations: 里 (place), 面 (face), 引 (lead).

永之三年十二月廿五日并文部省并合院

一井の里 赤野園

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

一里 赤野

648

本所の...の里の...
ちひい

あまの...
氏名由縁

は...の...
の...
の...

物...
よ...
の...

拾雅...
大和...
の...

海...
日

う...の...
君...
の...

給...
の...

あ...
法...
の...

あ...の...
の...

千...
カ...

巨...
の...

堀...
指中...
師...

お...の...
の...

お...
の...

お...の...
の...

お...
の...

大...
の...

お...
の...

お...
の...

島根

天仁大嘗會

左大臣入部攝合

^{家渡}見

見せしむらうの^里たあまのこを^丑あそぶる^かあ

^{御集}宮路よりあはれむ世給て

左大臣入部攝合

^春春さる^{はま}の^春花のよもよも^春の^春花のよもよも^春の^春花のよもよも

秋の比佐満ちて 西の夕人

もろもろの^兼秋の^兼夕の^兼夕の^兼夕の^兼夕の^兼夕の

永安二年乙未二月庚午命

左大臣入部攝合

えそ^行の^里の^橋の^橋の^橋の^橋の^橋の

^{備中或}近江

宮路にひ百首あまの^三位^位於^位也

^今あ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ

とくらの

白雲の^かあ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ

及徳あまの

白雲の^かあ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ

乙久二年秋子の親王

左大臣入部攝合

あまの^早あ^早あ^早あ^早あ^早あ^早あ^早あ^早あ^早あ^早あ

あまの^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ

家集

後教館長

おほはら 〇〇〇の里の〇〇〇

おほはら

〇〇〇

〇〇〇の里の〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇の〇〇〇

海及着は百首

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

四千九百三十一番

彰名紙

小主人景

萬三
まうすゝとての里より合さる苗入るりとのえん

日

後何丸

萬八
まうすゝとての里の梅の花をさるとしてとてのえん

歌後回 障

清人景

万八
まうすゝとての里の梅の花をさるとしてとてのえん

かきまのりいけ

為仲人

まうすゝとての里の梅の花をさるとしてとてのえん

川島里 海中

大島名附

まうすゝとての里の梅の花をさるとしてとてのえん

かきまのりいけ 相換

有原景

まうすゝとての里の梅の花をさるとしてとてのえん

御集

中務名

まうすゝとての里の梅の花をさるとしてとてのえん

かきまのりいけ

康平四年三月拾五日

或外部

まうすゝとての里の梅の花をさるとしてとてのえん

654

かきくさくさく

中命秋果

信

かきくさくさく

九月廿七日

仲実

かきくさくさく

かきくさくさく

海

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

日

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

かきくさくさく

うらたのき
あはれ
さび

承久四年一首

仲 徳室の臣

わらわりのきこり
ていやくていやく
ていやくていやく

建保二年一首
建保

うらたのき
うらたのき
うらたのき
うらたのき

わらわりのきこり
ていやくていやく
ていやくていやく

ていやく

貞徳二年一首

うらたのき
うらたのき
うらたのき
うらたのき

あはれ

結言の旨

月ののり
うらたのき
うらたのき
うらたのき

あはれ

後女の

月夜
うらたのき
うらたのき
うらたのき

悠紀
方古屏凡一

後女の

うらたのき
うらたのき
うらたのき
うらたのき

あはれ

日

うらたのき
うらたのき
うらたのき
うらたのき

承久四年一首

たつたの里

大津の里

織部今の里

あまの里

あまの里

たつたの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

あまの里

ホム人守命 ホム人の里

法中勸要人

ひらきあかしの里 ひらきの里 法中勸要人

丹波村 丹波村の里 法中

むらこ

新中月 新中月の里 法中

法中 辛五月 源廣徳勸要人守命

隔心家

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

しらの里 しらの里

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

しらの里 しらの里

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

しらの里 しらの里

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

法中勸要人

ホム人守命 ホム人の里

法中勸要人

ひらきあかしの里 ひらきの里 法中勸要人

丹波村 丹波村の里 法中

むらこ

新中月 新中月の里 法中

法中 辛五月 源廣徳勸要人守命

隔心家

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

しらの里 しらの里

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

しらの里 しらの里

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

しらの里 しらの里

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

法中勸要人

おほつふと おほつふと 法中勸要人

法中勸要人

名所歌 亀鏡

馬 近江 寶 寶 寶

近江

寶

寶

樂

近江中 龜鏡

光 皇 院 入 道 高 親 王 家 幸 有 持 衣 幽 有 名 若 臣

近江中 龜鏡

維 衛 近 新 台

おののけ

おののけ 月 井 里 女 子 名 若 臣

光 皇 院 入 道 高 親 王 家 幸 有 持 衣 幽 有 名 若 臣

九月十一日 井 里 月 井 二 の 日

おののけ

おののけ 月 井 里 女 子 名 若 臣

西 行 人

おののけ 月 井 里 女 子 名 若 臣

おののけ 月 井 里 女 子 名 若 臣

西 行 人

おののけ 月 井 里 女 子 名 若 臣

西 行 人

おののけ 月 井 里 女 子 名 若 臣

西 行 人

何れも〜System〜

〜System〜

源係

中〜源の〜System〜

〜System〜

源係

中〜源の〜System〜

源係

中〜源の〜System〜

源係

中〜源の〜System〜

源係

源係

中〜源の〜System〜

源係

源係

中〜源の〜System〜

源係

源係

源係

高野中一奇林

中程法師

高野中一奇林の影に
影に
高野中一奇林の影に
影に
高野中一奇林の影に
影に

天仁大尊

天仁大尊

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

天仁大尊

天仁大尊

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

天仁大尊

天仁大尊

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

天仁大尊

天仁大尊

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

天仁大尊

天仁大尊

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

天仁大尊

天仁大尊

天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に
天仁大尊の影に

まうらぶのさしとれ

歌の心算

まうらぶ

松の里にむれわらうすなはつららむこのさしとれ

日まうらぶの里母

多ゆまうらぶの里けのさしとれ

日ゆまの里ゆ

布ゆまうらぶの里けのさしとれ

日まうらぶの里ゆ

美林ゆのさしとれ

後中まうらぶの里 二条大妻肥後

あゆまうらぶの里ゆ

達之五年たふおあゆの里

中納言

書ゆの里ゆのさしとれ

ゆまの里

百首里行 民の心算

あゆまうらぶの里ゆ

天虎ゆの里ゆ

ゆまの里ゆ

日 後中

藤のひらねのさくら花のつぼみ
まじりて
あはれなる

曰

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

あはれなる

相摸

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

あはれなる

あはれなる

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

あはれなる

あはれなる

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

曰

あはれなる

あはれなる

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

あはれなる

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

あはれなる

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

あはれなる

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

あはれなる

あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ
あはれなるさくら花のつぼみ

あはれなる

くさくさはたかひよはるむあらんあらん
あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらん

海内院の百首

若中納言師内台

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

永徳四年十二月廿七日

若中納言

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

治承四年正月廿七日

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらん

あらんあらん

あらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あらんあらんあらんあらんあらんあらん

あつ野の里 たか

正治二年百首出命 毎百院入るるのみに

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

あつ野の里 たか あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里 あつ野の里

新続古秋下

家集

中納言

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

意匠院持家

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

平家盛

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

意匠院持家

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

意匠院持家

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

意匠院持家

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

建長七年顯朝卿の家の子青故卿霞

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

あはれなる女の人を梅の枝にまはさるるのさるる

久安三年七月海軍令

海軍令

海軍令の事、七月一日、海軍令、
海軍令、七月一日、海軍令、
海軍令、七月一日、海軍令、

文部省、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

海軍令、七月一日、海軍令、

674

河の底の里のりりえに た
た

王何七名小名令

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

日

珠

せりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

達もあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

民が由

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

おのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

いりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

同

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

相換

二

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

報中

形徳

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あゝのいりあゝのいりあゝのいりあゝのいり

あつらひのしるし

船中の人々

船中の人々

あつらひのしるし ^{早苗} _上 ^{早苗} _上

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし ^{早苗} _上 ^{早苗} _上

あつらひのしるし

あつらひのしるし ^{早苗} _上 ^{早苗} _上

あつらひのしるし ^{早苗} _上 ^{早苗} _上

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし ^{早苗} _上 ^{早苗} _上

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし ^{早苗} _上 ^{早苗} _上

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし ^{早苗} _上 ^{早苗} _上

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし ^{早苗} _上 ^{早苗} _上

あつらひのしるし

あつらひのしるし

あつらひのしるし

676

建保四年二月裏十首并合

西園寺入在太政大臣

すき 河川 後 山 けす けす けす けす けす けす けす けす

源業

三位左大臣

けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす

みまの里 山崎或は孫村

建保四年十首并合山崎 後多持院中殿

きき けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす

三三の里 三三は律山殿 又きい

新名

右多持院中殿

けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす

三三の里 三三備大和 丹波

建仁二年十首 善徳和寺

か の けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす

三三の里 後真

後光朝内大臣家合持院 後三位左大臣

けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす

八条院をの倉

けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす けす

建保二年百首

善徳公隆歌

699

下代 後拾遺

うらうらに露をおしらんかれを夢人の里おとのやぐら
うら海の里 錆磨 揚子

安井

夜半

おうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里
おまの屋

うらうら海

おあま

西行

うらうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里
うらうの里

うらうの里

おあま

西行

うらうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里
うらうの里
中務の館
うらうの里
うらうの里

うらうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里
うらうの里

うらうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里おうら海おうら海おの里
うらうの里

Handwritten text in cursive script, circled in red.

石倉のちり 海中

正安大書手會

Handwritten text in cursive script.

永保元年大書手會

永保元年大書手會

Handwritten text in cursive script.

三行力止

村

Handwritten text in cursive script.

源

源

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

永保六年大嘗會

御業

藤原朝臣藤原良房の御業

藤原朝臣藤原良房

西条大嘗會

御業

藤原朝臣藤原良房の御業

永保元年大嘗會

御業

藤原朝臣藤原良房の御業

藤原朝臣藤原良房

永保六年大嘗會

御業

藤原朝臣藤原良房の御業

藤原朝臣藤原良房

永保元年大嘗會

御業

藤原朝臣藤原良房の御業

藤原朝臣藤原良房

藤原朝臣藤原良房の御業

藤原朝臣藤原良房

天仁元年大嘗會

御業

藤原朝臣藤原良房の御業

あつちのうらやまの村¹²のうらやま^稲
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

あつちのうらやまの村¹²
あつちのうらやまの村

杉中歌竹百首

法印 皇因

あつみの村 後阿

見よむの村 後阿

中務の歌竹百首

あつみの村 後阿

見よむの村 後阿

あつみの村 後阿

見よむの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

あつみの村 後阿

又月 ^{新拾夏} 又月 ^{新拾夏} 乃の ^之 村 ^村 の ^の 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

5

は ^{三十九} 年 ^{九月} 廿 ^六 日 ^思 放 ^放 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

花 ^花 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

花 ^花 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

花 ^花 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

花 ^花 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

花 ^花 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

花 ^花 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

花 ^花 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

花 ^花 之 ^之 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん} 事 ^事 あり ^{あり} とい ^い はん ^{はん}

887

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事なる事

お尋ね成す

市におのりていふ事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

十日百箇之輪の事なる事

大おのりなる事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

百箇之市河也 後之住也

いふ事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所合事商人借住也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

文永四年七月十日何事なる事

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

お尋ね成す所の事也市におのりていふ事也市におのりていふ事也

689

建保三年ノ百首 延徳院の書

おぢいおぢい武のつれなきに さらけりてかたきんをえり

西三條の御所

さくらさくらあけぬけのつれなきに さらけりてかたきんをえり

西三條の御所

長きつれなきに さらけりてかたきんをえり

西三條の御所

さくらさくらあけぬけのつれなきに さらけりてかたきんをえり

西三條の御所

さくらさくらあけぬけのつれなきに さらけりてかたきんをえり

さくらさくらあけぬけのつれなきに さらけりてかたきんをえり

日

西三條の御所

さくらさくらあけぬけのつれなきに さらけりてかたきんをえり

建保三年名所百首 椿ノ 後三條花鳥名

さくらさくらあけぬけのつれなきに さらけりてかたきんをえり

後三條の御所

さくらさくらあけぬけのつれなきに さらけりてかたきんをえり

後三條の御所

さくらさくらあけぬけのつれなきに さらけりてかたきんをえり

4庭
三行
三行
歌集連ち四年毎百三箇中

歌々由歌卿

秋のよれも
日五年毎百三箇中

園のよれも
日五年毎百三箇中

百首
百首
百首

庭のよれも
庭のよれも
庭のよれも

庭のよれも
庭のよれも
庭のよれも

三行
三行
三行
三行
三行
三行

庭のよれも
庭のよれも
庭のよれも

三行
三行
三行
三行
三行
三行

庭のよれも
庭のよれも
庭のよれも

三行
三行
三行
三行
三行
三行

庭のよれも
庭のよれも
庭のよれも

三行
三行
三行
三行
三行
三行

庭のよれも
庭のよれも
庭のよれも

三行
三行
三行
三行
三行
三行

庭のよれも
庭のよれも
庭のよれも

692

玉の色

知花

天仁四年十月廿九日 仲太夫御旨

御心のまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと

後白河院御旨 御神々

葉の房のまじりのまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと

たりけれやとていふまじりたるはつらと

西行と人

我れはつらと御心のまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと

歌ふ如 小長 今宵

万葉には 建長七年 顕朝御家十首 光信御旨

建長七年 顕朝御家十首 光信御旨

なまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと

と物歌 氏乃内家御

なまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと

貞徳二年 尚存百首 尚存百首

なまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと

榎梅 三行方ん

建保二年 尚存百首 信正御旨

なまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと御心のまじりたるはつらと

信正御旨

月させとあろさぬまとの夕かせに軒はの梅はほろ
 いにけり 建長八年百首哥合 信實朝臣
 月の夜にこゑをほそめに窓あけて心をやれる歌か
 め歌 同
 まとあけて山のほみゆるねやの内に枕をばたて月を
 みる歌 西行上人
 家集
 おとほしていはにたはる霞こそよもほのみまとの友
 と成けれ
 建仁元年老若五十首哥合 寂蓮法師
 義在涼宮人未識
 大宰守式部卿
 西行上人
 三行分人
 十歌百首哥合
 信實朝臣
 西行上人
 寂蓮法師

卷十三月巳出

695

月させとあろさぬまとの夕かせに軒はの梅はほろ	いにけり	月の夜にこゑをほそめに窓あけて心をやれる歌か	め歌	まとあけて山のほみゆるねやの内に枕をばたて月を	みる歌	家集	おとほしていはにたはる霞こそよもほのみまとの友	と成けれ	建仁元年老若五十首哥合	寂蓮法師
------------------------	------	------------------------	----	-------------------------	-----	----	-------------------------	------	-------------	------

因書刊行會

谷ふかきかすみまとは明やらて雲そいさよふ營の

こゑ

式部親王家續千首

参議為相卿

暁月

秋さむきあらしの窓は明あやらてねさめに見よとすの

る月かけ

大百番哥合

大藏卿有家

夏きてそ野中のいほはあれまさととちてけり軒

み下草

光臺院入道二呂親王家五十首

廿一五四

閑中燈

從三位保季卿

つたへきく窓しつかなる君か代にいかりをそふるの

りの灯

夏卧北窓風枕席如涼秋

慈鎮和尚

さよふけてまとなしあくらうたねに枕すらしき庭

の松風

戸大帖題

民部卿為家

いかにせ人時に新大ニみくとのいておちにかた見みま

ほしきむ昔わを

寛元元年 後醍醐天皇 百首抄

我^我 夜^夜 今^今 待^待

あふ^{あふ} 月^月 の 戸^戸 の 影^影 けしき 月^月 影^影 けしき

影^影 影^影

影^影

あ^あ の^の 心^心 揺^揺 ら^ら ぬ^ぬ 影^影 けしき 影^影 けしき

洞院 後醍醐天皇 百首抄

あ^あ の^の 心^心 揺^揺 ら^ら ぬ^ぬ 影^影 けしき 影^影 けしき

洞院 後醍醐天皇

後二位 藤原

あ^あ の^の 心^心 揺^揺 ら^ら ぬ^ぬ 影^影 けしき 影^影 けしき

あ^あ の^の 心^心 揺^揺 ら^ら ぬ^ぬ 影^影 けしき 影^影 けしき

影^影

日

貴人そごい葉のあまのころのあまのころのあまのころ

信太のあま

中 あまのころ

日

あまのころのあまのころのあまのころのあまのころ

待

日 今宵 くらりやう

日 三位あまのころ

あまのころのあまのころのあまのころのあまのころ

あまのころ

信太のあま

あまのころのあまのころのあまのころのあまのころ

あまのころ

信太

あまのころのあまのころのあまのころのあまのころ

あまのころ

信太のあま

あまのころのあまのころのあまのころのあまのころ

あまのころ

あまのころのあまのころのあまのころのあまのころ

あまのころ

あまのころ

あまのころのあまのころのあまのころのあまのころ

あまのころ

あまのころのあまのころのあまのころのあまのころ

あまのころ

お二日 門柱
あつらひらけらるる門
夜直門長

お二日 市
あつらひらけらるる
信直門長

お二日 桑
あつらひらけらるる
三信門長
え徳門長

お二日 桑
あつらひらけらるる
中門 氏名内家
石

お二日 桑
あつらひらけらるる
中納言門長
門 三行分上

あつらひらけらるる
松門長
後宮御所長

あつらひらけらるる
手持門長
桑

あつらひらけらるる
黒門
後宮御所長

あはれそあま〜
日 葉

しらののこ

持信正の巻

唐のじらののこ〜

し

日

りくそす〜

文治二年五帖百首

白鳥文太左衛門

まゐらう〜

正治二年百首

おの門内大臣

治らぬ〜

日

とろ入る大臣

い〜

老とら〜

夕意

源二位重隆

い〜

正治二年百首

源重隆

す〜

源文千首

源重隆

う〜

千五百番歌合判り

源重隆

落しりすより月ひさしのちかひのうらみなるまはるるのまはるる

祇園社百首西門

霧のしらべりし面影のしらべりし西の柳の影のしらべりし

久安百首

新ののりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

新ののり

我ののりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

日吉百首

我ののりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

日吉百首 模範の門

わが心のしらべりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

三百六首

物あはれなきしらべりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

永久四年百首 瞿麥 春茶老茶房

よのひのしらべりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

赤白あまふ合

よのひのしらべりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

赤白あまふ合 源仲正

屋のりすしらべりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりし

正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

垣根 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

くそ世次 トキ 正治二年七月常座三首歌合 名流雅集

名流雅集

千林百抄并

秋の月さうくそてわらわりのあけくさるる

しやうのきと家抄云日中記とりの代と神の

海中に八重のあけくさるる

あけくさるる

家抄のあけくさるるのあけくさるる

日中記とりの代と神のあけくさるる

あけくさるる

あけくさるる

永久四年百首な夜 春原忠房

あけくさるる

弘治二年内裏百首春原忠房

あけくさるる

あけくさるる

仁安二年二月信濃守春原忠房

あけくさるる

梅の花いさかひのあけくさるる

久安五年七月信濃守春原忠房

あけくさるる

あけくさるる

あけくさるる

706

新家
十推下

くろく ^{土垣}

のり ^{七家}

三字

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

百首年

百首年

のり ^{七家}

のり ^{七家}

百首年

のり ^{七家}

のり ^{七家}

百首年

のり ^{七家}

百首年

百首年

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

のり ^{七家}

夫木和歌抄卷第三十一
終

